

令和6年度 第2回 三ヶ日中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年6月19日（水） 12時15分から15時30分まで
- 2 場 所 三ヶ日中学校 会議室
- 3 出席委員 高橋一浩、御園崇、渥美浩明、清水一則、岡本和久、長坂恭輔、寺田祐真、清水久美子、石田義樹、鈴木あゆみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 井口敏浩（三ヶ日協働センター）
- 6 学 校 江間昌史（校長）、岡田充弘（教務主任）、西田光男（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 教育委員会 指導主事 牧野知子
- 9 会議録作成者 CSディレクター 西田光男

10 議長の選出について

司会の岡田教諭から、議長の選出について、これまで同様に高橋会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 生徒の様子（給食・授業参観）について
- (2) 「総合的な学習の時間」の見通しと課題 … 三中祭について
- (3) 学校支援について
- (4) その他

12 会議記録

司会の岡田教諭から、委員総数10人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 生徒の様子（給食・授業参観）について

議長より、給食の試食や授業参観について感想や意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。

ア) 給食について

- ・残飯はどの程度あるのか。（渥美委員）

→基本的に分け切るようにしているので、残飯はゼロになるようにしている。

（岡田教諭）

- ・給食中の会話では、受け答えがしっかりしていて感心した。（清水一則委員）

- 黙食でなくなったので、明るい雰囲気になったように感じた。量的に少ない感じがしたが、生徒に尋ねてみると「おかわりがあるから、少ないと感じることはない」ということだった。ただ、「パンよりもお米」という希望はあった。一食 379 円ということだが、可能であればもう一品あればよいと感じた。(寺田委員)
- 給食中に会話がもう少しあってもよいと思った。(石田委員)
- コロナ禍が終わって、会話ができるようになったのは、生徒たちにとって本当によいことだと思った。また、成長期にある中学生にとって必要な食事量が計算されている献立だなと感じた。(岡本委員)
- とてもおいしい給食でした。生徒たちが笑顔でとても穏やかな雰囲気でした。栄養教諭さんが生徒に声掛けをされていたのもいいなと感じた。
(鈴木委員)
- 黙食から会話できるようになったが、さらに対面で食事ができるようになるとうい。(御園委員)
- 全員で同じものを食べることによさがある。また、年上の我々とでも会話ができ、とても素直である。(高橋委員)

イ) 授業の様子について

- 真剣に学んでいた。発表も元気がよい。(渥美委員)
- 先日、小学校で6年生の学習の様子を見てきたが、中学 1 年生になると随分と成長するものだなと感じた。(清水一則委員)
- 1 年生は小学校の名残があるなと感じた。2 年生と 3 年生は落ち着いていて、真面目過ぎるくらいに授業に取り組んでいた。(寺田委員)
- 授業における IT の活用や授業前の教材の準備などを考えると、先生方の事前準備の大変さを感じた。部活動の地域移行が進むと、少しは軽減されるのだろうか。
(石田委員)
- 真面目に取り組む授業と楽しくにぎやかに取り組める授業、というように色々な授業を見られたのはよかった。(鈴木委員)
- 授業において、先生方が生徒の学ぶ意欲を高める工夫をされていることが伝わってきた。(御園委員)
- 真剣に真面目に授業に取り組んでいた。先生方の指導のおかげと感謝している。
(高橋委員)
- 和気藹々とした雰囲気で、生徒さんたちが積極的に授業に参加していた。
(オブザーバー 井口)

(2)「総合的な学習の時間」の見通しと課題 … 三中祭について

岡田教諭より、総合的な学習の時間では、昨年度までと同様に20年後の三ヶ日町の活性化に向けて縦割りのグループで学習を進めているという説明があった。また、現在の課題としては、「課題内容によっては自然に左右されること」「生徒数が減少していること」「校外に出掛ける際の安全確保の問題」「費用の確保」が挙げられた。校長からは「今までの成果を基にしての大人のお膳立てがあることで、本来生徒たちが持っている探求意欲を削ぐことになっているかもしれない」という問題点が指摘された。それらを踏まえて、学習活動に関する気付きや意見を委員に求めたところ、以下の発言があった。

- 昨年度の中学1年生に「20年後に三ヶ日に住むと思うか？」というアンケートをとったところ、4分の1の生徒が「三ヶ日に残る」と答えている。4分の1という結果は少ないように思う。このことからすると、「20年後」というのは、中学生にとって現実的にとらえられる世界なのかとも思われる。
(清水一則委員)
- 自分たちの世代でも4分の1残っているかどうかであり、働く場所も十分ではないことも合わせて考えると、中学1年生の「4分の1」という数字は妥当なところかもしれない。(寺田委員)
- 高校がなくなってしまった影響も考えられる。(石田委員)
- 今までの学習の成果により、活動のためのテンプレートが出来上がっていることの功罪はあると思う。自分は大人になってから、やっと地域の課題を見つめられるようになった。中学生という年齢では、「地域の課題とは」という意識が低いのは普通のことだと思う。(長坂委員)
- 大人のお膳立てがあることによって、活動における新しい視点を見つけるとか、その子なりの課題を追求するということが確かにできにくくなるかもしれない。しかし、「ジャガイモの新たなメニューを考える」という活動では、地域のアドバイザーさんと知り合うことで、三ヶ日にはこんなことができる大人がいるんだな、という新たな発見があったようだ。活動そのものは同じでも、「人」には発見があると思う。(石田委員)
- 「20年後の三ヶ日町の活性化」というテーマは、中学生にとっては、やや漠然としていて、想像しにくいのではないかと思う。三ヶ日町も、少子高齢化が更に進んでいくと思われる。18才から26才までの女性は、市外に出ると殆ど戻ってこないという現状もある。こういった現状などを踏まえて、「20年後の町の姿」を改めて中学生も考えていくとよいと思う。(清水久美子委員)
- 三ヶ日町には多くの素晴らしい方々がいらっしゃる。そういう方々と出会って、「すごいな」という印象を子供たちがもつことは、とてもよいことだと思う。
(鈴木委員)

- 前回の協議会でも申し上げましたが、グループの再編をした方がよいと思う。時期としては11月の三中祭後が妥当だと思う。年度末では、既に次年度のことが始まっているので、結局間に合わない。活動に入ったら、例えば「〇〇してみたい」という考えをもつ生徒に「活性化できると思う？」と問い掛けることで、更に考えを深めさせていきたい。結果的に、今までと同じような活動になっても、意欲を見せるのであればそれでよいと思う。確かに「20年後」の設定は難しいので、「三ヶ日町の活性化」ということだけでもよいと思う。(寺田委員)

(3) 学校支援について

岡田教諭より、通学カバンをリュックに変更したことにより夜光チョッキが目立たなくなったという問題や、雨天時の車での送迎による学校周辺の混雑の問題、校内に侵入する鳩による被害について、学校としての対応の説明があった。

司会から、次回会議は、2024年10月9日(水)午後3時より三ヶ日中会議室にて開催する予定であるが、同日、講話を実施できる場合は、開始時刻が早まる場合がある旨の連絡があった。